

地域を繋げる音と舞



～橋本でハンドベルを教えている安達ノリ子さんにお話を伺いました～

安達さんは橋本の自宅で音楽教室を開き、ハンドベルなどの楽器演奏を指導していますが、現在は新型コロナウイルスの影響で教室をお休みしています。教室をお休みする前には、市内外の小学生から自治医科大学の学生や大人まで幅広い年齢層が安達さんの家に集まり、みんなで演奏を楽しんでいました。一時期は細谷小学校でも練習していたそうです。安達さんに楽器を教わっていた子どもが大人になっても交流が続いているなど、音楽教室は細谷小学校区の大切な地域コミュニティのひとつとなっています。



ハンドベルは4～5オクターブ分もあって、低音が出るベルほど重くなります。取材のときに聞かせてもらった音色はとても美しいものでした。

またみんなで演奏を再開できる日を心待ちにしています。



安達さん

ハンドベルのルーツは16世紀のイギリスから始まったんだって！500年前のイギリスで鳴っていた鐘の音が今は細谷小学校区で聞こえるなんてなんだか感慨深いなあ。



～橋本神社神楽会の所 元三郎さんにお話を伺いました～

橋本の南部に在る橋本神社では、神様に奉納される太々神楽(だいだいかぐら)という民俗芸能が行われています。太々神楽は「古事記」や「日本書紀」といった神話劇で、大太鼓や鼓、笛が鳴る舞台上で面と衣装をまとい、無言で舞い踊ります。所さんは定年後に地元とのかかわりを深めようと思い、初めて橋本神社の神楽に関わったそうです。

振り返ってみると地域との交流は大切で楽しく、自治会のコミュニティに入って良かったと思います。



新型コロナの影響でしばらく中止していますが、2時間半かかる神楽を終えた後の打ち上げは格別です。



太々神楽は200年以上前に橋本神社の南にある鷺宮神社で始まり、大正初期に橋本の氏子が神楽の衣装を作ったことをきっかけに、橋本神社に移管されて現在に至ります。また、鷺宮神社は橋本だけでなくその南側に位置する箕輪の人々と合同で氏子を務めています。橋本地区が橋本村(江戸から明治初期)だった頃、箕輪村とともに鷺宮神社を村社としていました。鷺宮神社の本殿は2村の境界の真ん中にあり、境内の面積も折半するなど、橋本と箕輪はそれぞれ別の村であったにも関わらず、神社が行政区を超えたコミュニティを作り出していました。鷺宮神社の宮司を務める宇賀神義宣さんは、橋本神社など細谷小学校区の神社や小井の金井神社など16社の宮司でもあります。



橋本神社



鷺宮神社



つながッテルね! 条例4条

(自治の基本理念)

- 第4条 市民が主役のまちづくりを推進することを基本理念とする。
2 市民、議会及び市が協働によるまちづくりを推進することを基本理念とする。